中学校第１学年　英語科学習指導案

生　徒：男子13名　女子12名　　計25名
指導者：工　藤　　朱　美

１　単元名　Program 8　Origami　(Sunshine English Course 1　開隆堂)

２　単元について

（１）単元について

本単元の題材は，折り紙に関する話題である。セクション１では，大介が英語の時間に，折り紙でつくった人形や動物を級友に見せながら日本折り紙協会での活動を紹介するスピーチを行っている。その後のセクションの会話文を読むと，折り紙が日本にとどまらず世界中で人気があることや，ネットで折り方のアイディアを交換し合う人もいることがわかる。単元名のorigamiも英訳されることなく，そのままの形で英和辞書に見られるほど広く知られていることを生徒に伝え，日本が誇れる文化の１つであることに気づかせたい。また，　大介のスピーチのようなShow & Tellが，アメリカではプレゼンテーションの力をつける基礎となるものとして，幼稚園や小学校でよく行われる活動であることを紹介し，実際にProgram 8で，「海外の人に岩手の見どころを紹介する」ことと，My　project 2で，「人を紹介する」Show & Tellに挑戦させ，自分の考えを聞き手にわかりやすく説明する力を身に付けさせたい。

言語材料としては助動詞canと，疑問詞howをつかった疑問文が導入される。助動詞は初出事項であるが，小学校での外国語活動で，canとwould　を使った表現には触れてきている。導入段階で，小学校での活動を想起させ定着を図るとともに，3人称単数の主語のときには動詞についたsが，canのあとではいらないことや，canやcan’tにおける発音上の相違点も指導したい。疑問詞howは，How do you say ～ in (English)？　や，　How do you spell ～？など日常的に授業で使える表現なので，耳になじませ，応答することができるようにしていきたい。

（２）生徒について

小学校で英語の学習に十分親しんできたことが，数字や曜日，天気などの学習の際に積極的に答えることに表れている。助動詞の学習は中学校では初出事項であるが，友達へのインタビュ―や自己紹介で，canの肯定文，否定文，疑問文には触れてきているので，その活動を想起させ，円滑に文法事項を導入し，文の構造の定着を図りたい。

ペアでの学習活動や，少人数での表現活動に意欲的に取り組むのだが，学習の時間に限らず，日常の様々な活動において，相手に伝えたいことを語尾までしっかりと話せない生徒が多いと感じる。そこで英語の学習においては，自信を持って話せるように基本的事項をしっかりと定着させること，話す場面を意図的に設けること，相手に伝わるように話すにはどうしたらよいか生徒に考えさせることが大切であると考えた。どのような文章や伝え方が相手の興味を引き出せるのか，米国に住んでいる相手にビデオレターを送ることを目標にさせ，創意工夫して言いたいことを伝えようとする生徒を育成したい。

（３）言語活動の充実の工夫

① canのあとの動詞を欠落させるというミスが，テストや英作文でよく見られるので，can＋動詞の練習を十分に行わせたい。Warm up　として，今までに学習した動詞の中で，canのあとに続けられる動詞を扱ったビンゴゲームを行い，「できる，できない」にかかわる表現を数多く言えるようにする。

② 学んだ英語を，繰り返し練習できるように，ペアワークやグループワークなどの学習形態や場面設定を工夫する。

③ 相手に正しくはっきりと伝えるためには，話す要点をメモしてから伝えることが有効であると考える。また，伝え方を学習者同士で検討し合うのも，よりよい発表の仕方を身に付けるのには効果的であると思う。さらに，自己表現を不得手とする本校の生徒にとって，言語活動の目的を明確にして取り組ませることは，創意工夫しようとする意欲につながるものと考えた。本単元では，My project 1で作成した自己紹介文に，岩手の観光地を紹介する文も加えさせ，そのメモをもとに発表させることに取り組ませる。その際，目的意識を持たせるために，誰へ発信するものなのかを明確にして取り組ませる。本単元では，米国に住んでいる，アメリカ人の小学6年生と4年生の姉妹にビデオレターとして送るためだと場面を設定している。

３　単元の目標

（1）助動詞 can を用いた文の構造について正しく理解し，運用することができる。
（2）手段について質問し，その答え方を理解することができる。
（3）ペアワークにおいて，間違うことを恐れず話す。
（4）観光地や自分自身について口頭で紹介することができる。

４　単元の評価規準

コミュニケーションへの関心・意欲・態度	外国語表現の能力	外国語理解の能力	言語や文化についての知識・理解
ペアワークにおいて，間違うことを恐れず話している。	観光地や自分自身について口頭で紹介することができる。		助動詞 can，疑問詞 how を用いた文の構造を理解している。 伝えたい内容を正しく言う。

５　発展と関連

㊥第６学年

Lesson 3
⑴ Can you swim ?
　No, I can’t.　I can’t swim.
⑵ Can you play the piano ?
　Yes, I can.
　I can play the piano.

⇨

㊥第１学年

Program 8　origami

can（肯定・疑問・否定）
⑴ Tom can read *kanji* too.
⑵ Can you ski ?
　Yes, I can. / No, I can’t.

６　指導計画及び評価規準（６時間扱い）

時	目　標(○)　と　主　な　活　動(●)	評価				
		関	表	理	知	評価規準（方法）
1	○can を用いた文（肯定文・否定文）の構造を理解できる。 ●助動詞 can を用いた文の構造を知る。 ●対話練習（できることについてペアで対話） ●大介のスピーチの内容を読む。	○			○ ○	・後日ペーパーテスト ・間違うことを恐れず，積極的に話しかけようとしている。伝えたい内容を正しく言う。 （活動の観察・振り返りカード）
2	○can を用いた文（疑問文と応答）の構造を理解できる。 ●助動詞 can を用いた文の構造を知る。 ●対話練習（自分と同じことができる人を探す） ●大介，マイク，ウッド先生の会話を読む。	○			○ ○	・後日ペーパーテスト ・間違うことを恐れず，積極的に話しかけようとしている。伝えたい内容を正しく言う。 （活動の観察・振り返りカード）

3	○自己紹介文に観光地を紹介する文をつけ加え，書くことができる ●観光地を案内するときに使われる表現を補足説明する。(NHEC 教科書) ●既習の表現に, can を用いた文も入れて，まとまりのある文章を書く。 ●ペアで自己紹介文を読む練習をする。				○	・伝えたい内容を整理してまとまりのある文章を書く。 (記述分析・振り返りカード)
4 本時	○観光地や自分自身を口頭で発表することができる。 ●前時に作成した英作文を発表しあい，伝え方について検討する。 (グループ内，全体)		○			・聞き手が理解しやすいように工夫して話す。(活動の観察・振り返りカード)
5	○観光地や自分自身を口頭で発表することができる。 ●作成した英作文をビデオレターとして録画する。 ●ビデオレターを見て，活動を振り返る。		○			・聞き手が理解しやすいように工夫して話す。(録画分析・振り返りカード)
6	○How～？の文の構造と応答を理解できる。 ●How～？の文の構造と応答の仕方を知る。 ●自分の名前のスペリングをグループで伝え合う。 ●大介，マイク，ウッド先生の会話を読む。	○			○ ○	・後日ペーパーテスト ・間違うことを恐れず，積極的に話しかけようとしている。伝えたい内容を正しく言う。 (活動の観察・振り返りカード)

7　本時の指導

⑴　目標

観光地や自分自身について，聞き手が理解しやすいように工夫して紹介することができる。(表現)

⑵　言語活動の充実のための工夫

○　学んだ表現を繰り返し活用させる指導の工夫

学んだ表現を，繰り返し練習できるように，ゲームや，自己紹介文にとりくませ，さまざまな場面で変化を持たせながら，繰り返し表現を活用させる。

○　言語活動に意欲的に取り組もうとする場面設定の工夫

米国に住んでいる小学６年生の女の子とその妹にビデオレターを送るという場面を設定して，目的を持った活動をさせる。その際，発表について改善したほうが良いと思われる点を学習者同士（グループ）で話し合い，アイディアを出し合わせることにより，創意工夫された発表ができるようにする。

⑶ 展開

段階	学習活動	形態	指導上の留意点 □準備物
導入 (10)	**１ はじめの挨拶をする。** **２ 前時の学習事項の復習をする。** 人物あてゲーム **３ 映像と画像を見る。** 自己紹介の相手，Jessica と Jenna が住んでいる，Campbell,San Jose の映像と，2 人の画像を見る。 **４ 本時の学習のめあてを確認する。** 聞いて，Jessica と Jenna 「 わたしと，岩手県（日本）の見どころ紹介 」 （相手に伝わるように発表するにはどうしたらよいか考えよう）	ペア	〔言語活動の充実のための工夫〕 学んだ表現をさまざまな場面で繰り返し活用させる。 □写真，デジタイマー 〔言語活動の充実のための工夫〕 学習への意欲を高めるため，言語活動の目的を明確にして取り組ませる。 □PC,テレビ ・本時の活動の見通しを持たせる。
展開 (32)	**５ 自己紹介を行う。** ①各グループで紹介文を発表し合い，発表についての改善点を話し合う。 ②グループ内から選出された代表者が，全体の前で発表をする。 ③代表者の発表を聞いて，評価と感想を振り返りシートに記入する。	個・グループ 個	□振り返りシート 〔言語活動の充実のための工夫〕 学習者同士で改善点を考え，創意工夫された発表ができるようにする。 評価規準 メモをほとんど見ないで，学習した表現を適切に用いながら，はっきりとした口調でわかりやすく説明できている。 Ｃへの手だて キーワードをはっきり言うことや，曖昧な発音を再確認するようアドバイスする。
終末 (8)	**６ 次時の学習の予告をする。** Jessica と Jenna の最新の画像を見る。次時は全員の紹介文の発表を録画する。 **７ 本時の学習を振り返り、評価する。** 本時の授業の評価と感想，次時への取り組みについて発表する。 **８ 終わりのあいさつをする。**		□PC，テレビ ・次時の学習活動の見通しと意欲を持たせる。 □振り返りシート ・次時によりよい発表をするために，本時の活動で気づいた点や改善点を確認し合う。また,発表者の良かった点に着目させ，感想を言わせることで，互いに内容を深めようとする意識を育てる。